

大好評！苗木配布

九州電力松浦発電所・電源開発松浦火力発電所

九州電力松浦発電所（原田孝所長）と電源開発松浦火力発電所（大塚哲夫所長）が6月12日、中央公園で苗木を配布しました。

環境月間の取り組みとして毎年行われているもので、配られた苗木はベゴニア、インパチェンス、平戸ツツジ、ツバキなど6種類、合計600本。配布前から並んでいた多くの市民は、配布が始まると自分の好きな苗木を選び笑顔で受け取っていました。



星鹿城山をきれいに

松浦ロータリークラブ

松浦ロータリークラブ（小松由美子会長）が6月8日、社会奉仕活動の一環として、星鹿城山で清掃活動を行いました。同会は不老山総合公園花壇の花植えなども行っています。

今年の清掃活動は5回予定されており、今回はそのうちの2回目。星鹿城山に同会が建てた石碑があることから、清掃活動を計画しました。この日は約20名の会員が星鹿城山のごみ拾いや除草作業を行いました。



郷土を守る消防人であるために

財団法人長崎県消防協会と今回の開催地となった本市が主催する第65回長崎県消防団大会が6月10日、松浦市文化会館で開催されました。

大会には、県内から約800人の消防団員が参加。昨年3月に発生した東日本大震災の犠牲者および長崎県消防殉職者308柱の御霊に黙とうが捧げられたあと、消防功労者に対する表彰、意見体験発表やアトラクションなどが行われました。

表彰では、本市消防団から本部分団長の谷口哲男^{てつお}さん（志佐・丹花）が消防庁長官表彰の伝達を受けたほか、団員と退団者の10人に表彰状や感謝状が贈られ、意見

第65回長崎県消防団大会

体験発表では、本市消防団第10分団班長の松本勝彦^{かつひこ}さん（志佐・笛吹）が、「私とジュニア消防」と題して、上志佐ジュニア消防クラブの指導者として経験してきたことを発表。「地域の予防消防の啓発活動と子どもたちの火災や災害に対する意識と知識の向上に努めていきたい。いずれは、この子どもたちが地域を守る消防団になってくれることを願っています」と述べました。

アトラクションでは、星鹿バンブーオーケストラの演奏と松浦クラブによるリズムなぎなたが披露され、竹楽器のやさしい音色と優雅ななぎなたの演技に会場から大きな拍手が送られました。



福島町は自然いっぱい癒しの里

福島町を心から愛し、その魅力を発信して町をもっと元気にしようと、日々活動している人がいます。



Interview 本川 浩二 さん

福島町の観光振興と地域産業の活性化に貢献するため、そして観光ガイド育成のために、今年3月、福島町の観光ボランティア団体として、松浦市観光協会福島支部主導で観光ガイド協議会が設立されました。その一員として活動しているのが本川浩二さん。

松浦市福島文化協会会長、松浦福島つばき会副会長など多くの肩書きを持ち、大忙しの中、より多くの人に福島町を知ってもらおうと奮闘する本川さんに話を聞きました。

CLOSE UP! まつうら 輝人

Q 団体設立に賛同した目的は？

A ボランティア観光ガイドは県内各地に多く存在しますが、福島町の観光ガイドは今まで私一人でした。福島町はまだPRが充分でないと感じる人が多い、個人から団体へ活動母体を大きくすることで、より強力に、多くの人へ福島町の魅力を発信したいと思いました。

Q 福島町の魅力とは？

A 福島町の魅力は美しい自然です。土谷棚田やいろは島など、思わず見とれてしまう風光明媚な景観がたくさんあります。さらに、町内各地区の史跡は、それぞれに興味深い歴史を持っています。

Q 観光ガイドをする時に心掛けていることは？

A ただ長々と説明をしても、相手には伝わりません。分かりやすい言葉で心を込めて話すことです。そして、島の歴史と現状に興味を持ってもらうためにも、どういう経緯があるのか、地名の起源など、日々気づいた疑問は調べるようにしています。

Q これからの目標は？

A より多くの観光客に、自然の美しさを体験し、島の歴史を知ってもらいたい。そして癒しを感じてほしいです。

福島町を自然いっぱいの癒しの里としてPRしようと、いつも燃えています。



(自宅庭園にて)

◎ PROFILE

本川浩二さん(福島・伊万里釜、65)
6歳から福島町に住み、旧福島町役場退職後、ボランティア活動に専念する。趣味は絵画・盆栽・和太鼓・津軽三味線などさまざま。